

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072501204		
法人名	(有) 大島		
事業所名	グループホーム いきいき		
所在地	長野県下伊那郡松川町元大島5274-22		
自己評価作成日	平成21年11月17日	評価結果市町村受理日	平成22年6月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072501204&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・東西の山々を眺め自然に囲まれ移り行く季節を利用者様と共に楽しみ、地域の方々とともに生活をしております。・木のぬくもりを感じる事ができる建物で屋内も家庭的な造りになっています。・利用者様のそのときその一瞬が穏やかで楽しいひとときの積み重ねとなるようスタッフ一同心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福祉施設での介護経験豊かな施設長が、一人ひとりの利用者が住み慣れた地域の中で“ずーといきいき”と、生活して欲しいとの願いをこめた理念を掲げ、2005年開所、運営して来られた。普通の家の玄関風景、木のぬくもり感のある屋内は敷居の無いバリアフリーで、利用者に優しい安全な環境となっている。地域の事業所として、馴染みの人や場所との付き合いを大切に、家族をイメージした少人数での買い物等の外出支援を行い、利用者の楽しみや喜びのある生活を支援している。また、昨今発足した運営推進会議や家族会を活用し、今以上に地域に根差したホームづくりへの取り組みが期待される。職員は利用者に温かな目を向け耳を傾け礼儀正しい丁寧な対応により、利用者の笑顔が見られ良質なケアサービスが提供されている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に置き日々管理者、スタッフ共に実践につなげている。	地域密着型サービスの役割を認識した理念を掲げ、玄関や共有空間、事務室などに、かわいらしい額に入れるなど工夫し、複数掲示されていて、それがそのまま職員全員の意識となって実践につながっている様子が受け取れた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店での買い物や地域での行事に参加し交流を図っている。(お祭り、文化祭等)	町会へ加入しており、春夏のお祭り、どんど焼きなどの行事や地区の清掃にも参加している。お祭りの際は踊り連がホームを訪問して踊りを披露してくれるなど交流をおこなっている。また近隣の方々が花や野菜、果物などを日々届けて下さり、交流が図られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブ、商工会等の認知症サポーター100万人キャラバンサポーター養成講座を開いている。管理者講師により)		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際、評価の取り組み状況を報告や話し合いをし、サービスの向上に活かしている。	自治会の役員、役場担当者、包括支援センター、民生委員、家族代表、ホーム管理者、事務長、職員リーダー、職員(当日勤務者)が出席し、第1回を開催した。	今年から家族会を発足させたこともあり、今後は運営推進会議を定期的に行い出された意見や要望を検討され、なお一層のサービスの向上を期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に連絡を密に取り、協力関係を築くよう取り組んでいる。	毎月ケアマネジャー会議に出席し、役場担当者と、現状について話す機会をつくっている。また役場担当者は研修会通知などを郵送するのではなく、訪問して届けてくれるので、中に入って一緒に過ごす時間をつくってもらっている。	

外部評価結果(グループホームいきいき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを代表者及び全スタッフが研修会等で学び取り組んでいる。	身体拘束の研修会に出席して、「禁止の対象となる行為」について、全員が理解をしてケアにあたっている。	研修会への出席やマニュアル、生活風景などから、拘束しないケアに取り組んでいる様子が伺える。身体拘束ゼロの認識が基本であるため、運営規程の文章表現の変更が望まれます。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、職員会等で学ぶ機会を持ち防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会で学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進委員会等にて意見を出していただき運営に反映している。	家族会を今年発足し、第1回を9月に開催した。県外在住の家族は出席できなかったが、そのほかは全員出席した。	本人や家族の思い、また要望や意見などを聞くよい機会なので、定期的に家族会を開催し運営に反映されるよう期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや毎月の職員会にて意見や提案を出し反映させている。	毎朝のミーティング、毎月27日に行われている職員会、カンファレンスにて活発な意見交換がおこなわれている。	

外部評価結果(グループホームいきいき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修等の機会を持ち職員のスキルアップ向上に取り組んでいる。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会等で交流を通じサービスの質を向上させている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初期段階で本人が困っていること要望等を聞き信頼関係作りに努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の要望等を聞きニーズに添えるべき対応を心がけ信頼関係作りに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族が最優先している支援を見極め対応している。</p>		

外部評価結果(グループホームいきいき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と暮らしを共にする関係は一番の基本としている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にされた場所に出かけたり、馴染みの方が気兼ねなく来ていただける、グループホームであるよう心がけている。	友人、姉妹の訪問が多くある。また家族が馴染みの食堂などへ同伴外出している。ホームにいても自宅へ帰り、畑仕事をしてく人もいる。また、同級会に出席された人もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方を十分把握し、利用者同志の関係が良いものになるよう関わり合い穏やかに暮らせるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関係を大切にし相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや要望を大切にした暮らしに努めている。	本人の過去の生活歴を見たり、日々の生活の中で把握に努めている。先ほどの言動が今はもう違うということが多いので、その都度すぐに対応するようにしている。	

外部評価結果(グループホームいきいき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方、又サービス利用等把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり暮らしの状況等詳細に記録し全スタッフ把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い職員会等で意見を出し合い介護計画を作成している。	本人と家族それぞれに接する中で、職員各自の感じていることなどを職員会で出し合い、個別に見直しながら計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録とその情報を共有し実践に反映している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるため柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握して本人思いに添った生活を楽しめるよう協働している。		

外部評価結果(グループホームいきいき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医が定期往診(毎月)又必要に応じ随時往診に来てくださる。本人のかかりつけ医への受診には送迎している。</p>	<p>協力医療機関より毎月定期往診がある。かかりつけ医には診察に同行、送迎をおこなっている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護員は看護師(職員)と常に連携、相談をし利用者が適切な看護を受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院退院時等常に医療機関と情報交換、相談に努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人家族等と話し合いを持ちできる限り希望に添った方針を共有し、関係者と共に支援に取り組んでいる。</p>	<p>開設後1名の看取りをおこなった。</p>	<p>管理者は、家族の希望に合わせて可能な限り終末期に対応したいという考えである。また今後の重度化や今後入居される方々にとっても、事業所の方針を定め文書化されることを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故等の発生に備え、定期的に消防署等の協力を得て訓練を行い、実践力を身に付けている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練の実施、非常食等を常備している。地域との協力体制もできている。</p>	<p>地域からの協力体制、他のグループホーム間との協力体制も整っている。事業所内に自衛消防隊を編成し、万々に備えている。</p>	

外部評価結果(グループホームいきいき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保持に留意し丁寧な言葉かけや対応に心がけている。	職員一人ひとりの言葉や態度にさりげなさがあり、利用者はゆったりとして、明るく穏やかな表情で過ごされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を表出し自己決定できるよう働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らし、希望を最優先し支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ好みの服などその方らしいおしゃれができるよう清潔にも気をつけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員と一緒に話をしながら食事の準備片付け等を行いながら楽しい食事の時間となるよう支援している。(食事のメニューを利用者様と考えて作る)	利用者が自主的に昼食作りに加わり、思い思いの役割をこなしている姿は家庭を思わせる。二つのテーブルを一つにつなげて全員で和気藹々、また職員は利用者全員に話しかけ、楽しい食事風景であった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を確認記録する(一人ひとりに応じて対応している)又管理栄養士に定期的に献立表を見られている)		

外部評価結果(グループホームいきいき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせて排泄の自立に向けて支援を行っている。	排泄チェック表をもとに本人のリズムに添った支援をおこなっている。立位を維持できない人や車椅子使用者も多いが、自立に向けた支援を心がけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を考えつつ毎食野菜等を工夫して食卓に出し水分補給にも留意している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせていつでも入浴を楽しめるよう支援している。	24時間入浴可能なので、それぞれの好みに合わせて入浴支援をしている。浴室も清潔に整頓されていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣等に合わせ安心して眠ることができるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬への理解、服用後の症状の変化の確認に努めている。		

外部評価結果(グループホームいきいき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりを理解し、役割や楽しみごとの支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添って外出できるよう企画し支援している。	管理者の「集団での外出は施設感が強い」という意向により個別に、父母と子、祖父母と孫のような外出をこころがけている。食事の買い物も利用者で行くようにしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	全員が使えるよう支援しているが、本人家族の意向に添い支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも自由に使い、手紙を書けない方は代筆等している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は季節の花や写真を飾り、和室にはコタツを置くなどしてゆったりとした時間の中で過ごせるよう支援している。	梁には太い材木を使用し、使用している家具なども民芸調で落ち着きがあり、ぬくもりを感じる。照明は暖色で、温かみがある。季節の花々が飾られ、廊下の壁にも様々なものが飾られていた。和室にはコタツが置かれ季節感があった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、和室、台所、廊下のソファ等一人での時間、気の合った仲間同志で過ごせる場所作りに工夫している。		

外部評価結果(グループホームいきいき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れた物や布団、ベット等自分の好みのものを置き個性を大切に、居心地の良く暮らせるよう工夫している。	居室は日当たりもよく、使い慣れた家具や寝具が持ち込まれており、写真や、ぬいぐるみ、人形、花などが思い思いに飾付けられていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできることを活かし、安全でできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		